



自然遊学館 だより

2014 SUMMER

No.72



田んぼの生きもの調査

2014年6月23日、貝塚市立西小学校の5年生の皆さんと
臨浜1丁目にある早崎さんの田んぼで、生きもの調査を行いました。
たくさんのスクミリンゴガイやヌマガエル、チビゲンゴロウのほか、
ホウネンエビも見つかりました。

2014. 8. 25 発行 貝塚市立自然遊学館

目 次

*ネイチャーレポート

貝塚市の海辺の昆虫……………岩崎 拓… 1

*行事レポート

切り絵製作会 I ……………川村甚吉… 3

春の和泉葛城山登山 2014……岩崎 拓・湯浅幸子… 5

自然を食す I ……………川村甚吉… 7

渚の生きもの ……………山田浩二… 10

稚魚放流 ……………山田浩二… 12

親子海釣り体験……………岡田真太郎… 13

*泉州生きもの情報

ジムグリ ……………岩崎 拓… 14

イボタガ……………岩崎 拓… 16

外来ギンヤンマ ……………鈴木勝也… 17

トゲカイエビ ……………山田浩二・高橋寛幸… 18

*館長コーナー

遊学館 20 周年を記念して『生きものだいすきで 20 年』
ー 生きものだいすきの歴史が積み上げたもの（最終回）ー
……………高橋寛幸… 19

*特別展レポート

第 9 回生きもの切り絵展 ……………川村甚吉… 24

*寄贈標本 …………… 27

*スタッフ日誌 …………… 28

*お知らせ …………… 29



ネイチャーレポート

貝塚市の海辺の昆虫

昨年の 20 周年記念特別展「貝塚市の海辺の生きもの」の昆虫コーナーで展示した内容に、新たに分かった知見を加えて、貝塚市の海辺にすむ昆虫についてまとめてみました。海辺と言うよりは、貝塚市の海岸に近い場所と受け取って下さい。

1. 水生昆虫と陸生昆虫

昆虫の中にはわずかながら、海岸の潮だまりや塩性湿地にも棲めるものがあります。市民の森につくられた自然生態園「トンボの池」は雨水を貯めたものですが、「薄い潮水」でも生きられる水生昆虫がやっています。その代表例はチャイロチビゲンゴロウです。その他にも、海岸沿いの水たまりを移動する水生昆虫がいます。



チャイロチビゲンゴロウ
二色市民の森 2014 年 7 月 12 日撮影

陸生昆虫に関しては、貝類や甲殻類など他のグループと同じく、海辺にすむ昆虫は、砂浜を好む種と岩礁を好む種に大きく分けることができます。砂浜を好む種は二色

の浜に、岩礁を好む種の中で人工的な環境に適応できる種がテトラポット護岸に生息しています。



二色の浜の景観



テトラポット護岸の景観

2. 二色の浜～近木川河口

二色の浜から近木川河口にかけては、ハサミムシ類、ゴミムシ類、ハネカクシ類など、雑食性で主に打ち上げられた動植物の遺体を食べるものが生息しています。よく見かけるのはオオハサミムシとハネカクシの仲間（アカウミベハネカクシ、アバタウミベハネカクシ、ハマベアカバハネカクシなど）でしょう。



オオハサミムシ

二色の浜 2010年5月8日撮影



オオスナゴミムシダマシ

二色の浜 2010年5月8日撮影



ハマベアカバハネカクシ

近木川河口 2014年5月31日撮影

植食者の中で目立つのはオオスナゴミムシダマシで、いろいろな植物を食べていますが、好みがあるようです。陸生植物ではコメツブウマゴヤシやシロバナシナガワハギ、海浜植物ではハマボウフウやハマヒルガオを好みます（本誌 57 号）。サツマイモやヒルガオを餌植物とするイモサルハムシは二色の浜ではハマヒルガオを食べています。

バッタ類の中では、やや乾燥して草丈が短い草地を好むトノサマバッタ、クルマバッタモドキ、マダラバッタ、ショウリョウバッタ、イボバッタなどが生息しています。砂浜だけに生息するヤマトマダラバッタは二色の浜が大阪府で最後の生息地でしたが、1978 年の確認が最後になり絶滅したものと考えられます。



ヤマトマダラバッタ

＜淡路島吹上浜 2008 年 9 月 25 日撮影＞

鳴く虫としては、内陸の草地にもいるシバスズ、マダラスズ、ヒロバネカントン、エンマコオロギ、ミツカドコオロギ、ハラ

オカメコオロギ、ツヅレサセコオロギ、コガタコオロギ、タンボコオロギなどの鳴き声が聞かれます。毎年ではありませんが、マツムシの鳴き声が聞こえる年もあります。

海辺近くだけにすむ鳴く虫としてふれておくべきものは、タイワンエンマコオロギです。岬町から貝塚市までの海辺の草地に生息していて、現在、貝塚市が分布の北限になっているものと考えられます。生態があまり分かっていない種で、貝塚市で散発的に鳴き声が確認されているのは、完全な定着地ではなく、より南の場所から成虫が移動してきている可能性もあります（本誌 64 号）。ただ、2013 年 5 月 20 日を最後に、それ以降鳴き声を聞いていないことが気がかりです。

3. 人工島のテトラポット護岸

貝塚人工島のテトラポット護岸には、貝塚市でもここで見られない独特の種が生息しています。ナギサスズとウスモンナギサスズという成虫になっても翅が生えないウミコオロギの仲間です（本誌 62 号）。あとはイソハサミムシという大型のハサミムシも確認されています。イソハサミムシは自然遊学館周辺でも採集例があるので、ウミコオロギよりは分布が広いのかもしれませんが。イソハサミムシも成虫になっても翅が生えません。飛んで海に落ちたら死んでしまうという岩礁の生息地への適応だと考えられます。



イソハサミムシ

貝塚人工島産 2010 年 8 月 27 日撮影

それらの昆虫やフナムシに混じって、内陸でも屋内でもどこにでもいるクロゴキブリもたくさんいたりします。クロゴキブリには翅が生えてますね。先の適応に関する説明は割り引いて考えて下さい。クロゴキブリとナギサスズ、イソハサミムシ、フナムシとの共通点は雑食性ということで、生きた植物が生えないテトラポット護岸では、昆虫の多数派であり適応放散の主流である植食者が生きづらいことを示しています。

(岩崎 拓)



行事レポート

平成 26 年度 切り絵製作会 I

日時 2014 年 4 月 6 日(日) 13:30~16:00
場所 自然遊学館多目的室
目的 生きものをしっかり観察し、切り絵で表現する。(今回の教材は小品「花」とした)

参加者 受講生 11 人+スタッフ 3 人

教材 カメ、ツバキ、ツクシ、サクラ、サザンカ、ボタンサクラ

活動の様子

今回の受講生は全く初めてという方は 1 名で、他の 10 人はリピーターです。初めての方にはカメを教材にして頂きました。他は今回のテーマであります「小品」にチャレンジして頂きました。サザンカ、ツクシ、サクラ、ボタンサクラの教材に無言で取り組んでいました。



館長挨拶

ツバキ → 黒ケント紙の花とつぼみ、葉の部分を切り、裏から赤ケント紙で花の部分に、若草ケント紙でつぼみの部分にそれらを接着後、裏前面にスプレーのりをふりかけ緑ケント紙を貼り付け周囲をカットして出来上がり。

ツクシ → オリーブケント紙に教材を弱接着カスプレーで貼り付け白の部分を切る。裏から白ケント紙を接着して完成。

サクラ → 黒ケント紙に教材のコピーを貼付け、白の部分を桜の内側をカットした後、周りもカットし、白ケント紙に貼り付ける。

サザンカ → ツバキと同様の過程を踏む。

ボタンサクラ → 教材の花の部分と葉の部分を全部カットし、裏から花の部分にピンク上質紙を貼り、また全体にスプレーのりをかけ、緑ケント紙を貼り付けて出来上がり。



製作場面

その成果もあって、すこぶる早くできました。それで早い方からもう一つ選んで実習して頂きました。



作品と集合写真

(川村 甚吉)

春の和泉葛城山登山 2014

日時：2014 年 4 月 26 日（土）10:00～16:00

場所：蕎原バス停～和泉葛城山山頂

参加者：27 人

今年は、花が咲いた植物を見てもらおうと、登りを A コースにして、下りは箱谷階段を避け、B コースにしました。蕎原バス停で集合し、作業道の方を通って、タチツボスミレ、ジロボウエンゴサク、シャガなどの花を見ながら、春日橋まで行きました。春日橋の道路上になぜかマムシがいて参加者が知らずにまたぐというハプニングの後、コース説明と、山頂までに見られる植物の説明をしました。

春日橋を出発し、本谷に入ってから岩壁にイワタバコが見られます。宿ノ谷に入ってからイワタバコのほか、ムロウマムシグサの変った形の花が目立ちます（図 1）。花を付けたアオキの群落の中に、コショウノキがありました。これまで B コースと本谷では見つけていたのですが、宿ノ谷にもあることが分かりました。



図 1. ムロウマムシグサ（さといも科）

だらだらと坂が続くので、4 月 17 日の下見の際にムカシトンボの羽化前幼虫が石下に潜んでいた場所あたりで休憩をとることにしました。すると参加者の方が、スギの木の根元を指さし、「トンボがいる」と教えてくれました。それはムカシトンボの羽化したての成虫と、それが出た羽化殻でした（図 2）。そのスギの幹には、高さ 2m のところに、もう 1 匹、羽化したての成虫と羽化殻がありました。こちらの方が羽化してから時間が経っていて体色が濃くなっていました。ムカシトンボは水辺から離れて羽化する個体もいるようで、今回は最短の距離でも 10m 以上は水辺から移動したものと考えられます。



図 2. ムカシトンボの成虫と羽化殻

そこから宿ノ谷をさらに進み、ハシカケノ滝で 2 回目の休憩を取り、近くのニリンソウの群落を見てもらいました（図 3）。そこから登山道は沢から分かれ、チャルメルソウ、ヤマルリソウ（図 4）、コバノミツバツツジ、タムシバ、ミヤマシキミ、トウゴクサバノオ、シハイスミレなどの花を見てもらいながら、山頂のブ

ナ林の中を進み、無事、山頂に着きました。



図3. ニリンソウ (きんぼうげ科)



図4. ヤマルリソウ (むらさき科)

昼食後に集合して、山頂付近で拾ったブナの殻斗と堅果を見てもらってから、帰りは高橋館長が先頭でBコースを下りました。

最後、Bコースから道路に出た付近では、仕掛けにアライグマが入っていて、生きた姿を見た人もいたかと思います。去年は最後の箱谷階段がつらいと言われた参加者がいて、今年はBコースの沢の下りの箇所でそのように感じられた参加者がいました。受付の際に説明不足で申

し訳ありませんでした。本文中の植物の写真は、4月17日の下見時のものを使用しました。

今回は鳥に詳しいスタッフが参加せず、記録した鳥の種数はわずかです。蕎原バス停付近では、キセキレイ、イソヒヨドリ、ツバメを目視し、Aコースでは、シジュウカラ、ヤマガラ、ツツドリ、キジバト、ヒヨドリの鳴き声を聞きました。その他の鳴き声は分かりませんでした。登りのAコースで拾った羽根はヤマドリの背羽でした(図5)。山頂で間違えて説明して申し訳ありませんでした。下りのBコースでアオバトの羽根を拾った方がいました。羽根はいずれも館に持ち帰って図鑑で調べました。



図5. ヤマドリ♂の背羽
(各羽の長さは約7cm)

4月26日に確認された主な植物

(花) は、花が咲いていた植物、(帰) は帰化植物を示しています。

おみなえし科 ツルカノコソウ(花)、ノジシャ
(花)(帰)

いわたばこ科 イワタバコ

しそ科 ヒメオドリコソウ(花)(帰)、カキドオシ
(花)、ミカエリソウ
むらさき科 ヤマドリソウ(花)
つつじ科 コバノミツバツツジ(花)
せり科 ヤブニンジン(花)
みずき科 アオキ(花)、ハナイカダ
きぶし科 キブシ(花)
すみれ科 タチツボスミレ(花)、シハイスミレ
(花)
じんちょうげ科 コショウノキ(花)
みかん科 ミヤマシキミ(花)
ばら科 クサイチゴ(花)、ニガイチゴ(花)、ナガ
バモミジイチゴ(花)
ゆきのした科 チャルメルソウ(花)、ヤマネコノ
メソウ(花)、ヤマアジサイ、マルバウツギ(つ
ぼみ)
あぶらな科 ユリワサビ(花)
けし科 ムラサキケマン(花)、ジロボウエンゴサ
ク(花)、ミヤマキケマン(花)
うまのすずくさ科 イズミカンアオイ(花)
きんぼうげ科 ヒメウズ(花)、トウゴクサバノオ
(花)、ニリンソウ(花)、ウマノアシガタ(花)
しきみ科 シキミ(花)
もくれん科 タムシバ(花)
いらくさ科 カテンソウ(花)
あやめ科 シャガ(花)
ゆり科 チゴユリ(花)、ユキザサ(花)、ショウジ
ョウバカマ(花)
さといも科 ムロウマムシグサ(花)

(岩崎 拓・湯浅 幸子)

自然を食すⅠ(平成26年度)

日時 2014年5月25日(日) 12:00~14:30

場所 自然遊学館多目的室

参加者 20人+スタッフ4人

目標 初夏の自然の恵みを食し、自然に親
しむと共に、初夏の自然について学
び取る。

講師 調理 栗山 昭 先生
自然食研究 川村甚吉

メニュー

タケノコご飯

山ウドの吸い物

おかず 山ウドのキンピラ

キャラブキ

イタドリの胡麻和え

天ぷら

デザート トコロテン

飲み物 柿の葉茶

クマザサ茶

活動記録

12時の定刻近くになりますと、ご飯や吸
い物、お茶を取りに来てもらったり、テー
ブルのおかずを分配したりしてもらいま
した。



配膳の様子

家族人数等を考慮して4つのグループになってもらいました。隣の人が全く初対面となったグループもいくつかありました。しかし、みんな食事が進むと和気あいあいのムードで楽しそうに話していました。

当日のメニューは上に書いた通りですが、どの食べ物もおいしそうに食べていました。ご飯は米 16 カップ、汁は 5 リットル(32, 3 人分)、おかずも十分用意していましたが、時間がたつにつれてテーブルの食べ物が少なくなっていました。



おかずの様子

食事を終えて簡単な片付けの後、館長挨拶やスタッフ紹介、本日の日程などを済ませてから、栗山先生から本日のメニューについての説明です。

タケノコご飯だけでなく炊き込みご飯を作るコツは、米 1 合に大匙 1 杯の醤油を入れることと栗山先生は説明されます。

山ウドの吸い物等、汁ものは香を大切にすることと強調されます。おかずのテンプラは植物は低温(160 度)でじっくり揚げるのが大切だと説明してくれました。



説明される栗山先生

引き続き実習です。トコロテン作りです。施設の無いところでの実習は不便ですがそれだけに工夫のし甲斐があります。本当は実習を後回しにする方が日程としては組しやすいのですが、できたトコロテンを持ち帰りやすくするにはまず実習し、冷ます必要があります。その冷ます間に寒天や本日の食材の話をしました。



実習の様子

次に川村からは初夏の食べられる草について説明しました。今回の食材は山ウド、山のフキ、イタドリ、フキの葉、セリを使いました。

柿の葉やクマザサのお茶は焙じ茶にしました。お茶にすることのできる草は身近

にかなりあります。食べても大丈夫とわかった草はまずきれいに水洗します。蒸し器で緑が残っているときに取り出し乾燥します。乾燥した草をフライパンに入れて、



画像で説明する川村

こげ目がつくくらいまで炒ります。乾燥した容器に入れて貯蔵し焙じ茶の出来上がりです。

そのあと感想を書いてもらい、「自然を食すⅠ」を終了しました。

参加者感想文

- ・トコロテンはおもしろかった。それにしても大変手間がかかっているのを知って、川村氏に感謝したい。ありがとうございます。(横超)
- ・本日唯一のタンパク イワシの天ぷら 美味でした。
- ・家では経験できない食材でおいしくいただきました。前は山フキの葉の天ぷら、今回はユキノシタの葉天ぷらにさせていただき事にします。寒天家で作ります。銀二貫をみながら楽しみます。(中谷 修)
- ・今日はありがとうございました。ユキノシタは家で花が咲いているので葉っぱの天ぷらをしてみます。おみやげの寒天は夜にいただきます。
- (中谷 尚子)
- ・タケノコご飯が一番おいしかったです。おばあちゃんの家にあるのがお茶になっていることがビックリしました。たくさんの葉が食べられるんだと思いました。
- ・タケノコごはんがあんまりおいしくなかった。
- ・私の実家の庭に植えてあるのが、お茶になり、葉が食べられるのがはじめて知りました。
- ・想像していた以上に素敵な講座でした。それと、小学生連れのファミリーが三家族もいらしたことがとてもうれしことでした。是非これを発展させて継続していただければ嬉しいです。(高石市、馬渡 文男)
- ・イタドリのゴマ和え大変さっぱりして美味でした。ヤマウドは歯ごたえがあり繊維質があって少し繊維が口に残って自然な感じがしました。食育のお話し聞けて楽しく過ごさせていただきました。ありがとうございます。柿の葉のお茶からだにも良いとか、市販されているのでしょうか。(大条)
- ・てんぷらおいしかったです。(わたなべ なみれ)
- ・天ぷらがおしかったです。セリが一番おいしかったです。(渡辺 いこい)
- ・自然の食材を食べるにはとても手がかかっていてありがたいことだと思いました。いつもお世話していただきありがとうございます。自然の恵みに感謝！！
- ・いろいろ勉強させていただきいつも本当にありがとうございます。全ておいしく頂きました。食後食材の説明をしてくださいましたが、食前にお聞きしたらもっと心して味わえたのにも思います(特にトコロテンの原材料のテングサを作るご苦労など)。本当にお世話になりました。
- ・今日は本当においしくいただきました。特にイタドリのゴマ和えが美味でした。ありがとうございます

ざいました。ユキノシタが食べられるとは思っていませんでしたのでおどろきです。

- ・ テングサから初めてトコロテン作りをしました。思った以上のねばりがあり驚きました。てんぷらも大変おいしかったです。
- ・ 改めて自然・水の大切さ、また、先人の知識に驚きました。楽しい企画をこれからもよろしくお願いします。(古川 裕之)
- ・ タケノコご飯とおすいものがおいしかったので3 ばいもおかわりした。さかなといっしょに食べるともっとおいしかった。トコロテンを前より食べられるようになっていた。(渡辺 怜真)
- ・ いつもお世話になっています。おかげさまで子どもたちもトコロテンを作れるようになってきました。今日食べた中で、イタドリが手に入れやすい食材なので今度とってきて作ってみたいです。安心して食べれる食材を、たくさんいただけてしあわせです。ありがとうございます。(渡辺 久和)
- ・ 子どもが自然を食すがお気に入りです！(私も) 水につながるお話もそうだな！と思いました。だからこそ、きれいな水を残していくような生活を次の世代に伝えていかねばとあらためて思いました。季節を丸ごといただいたようで本当に美味でした！また次回も参加できたらうれしく思います。野草茶は作るようになりました。(品田 祐加子)
- ・ 天ぷらがすごくおいしくてトコロテンが一番おいしかったです。(しなだ こうき)

(川村 甚吉)

渚の生きもの

日時:2014 年 5 月 31 日(土) 13:00~15:30

場所: 近木川河口

参加者: 62 人

今年度初めての海辺での観察会を講師に日下部敬之さん(大阪府立環境農林水産総合研究所)をお呼びし、開催しました。また、第7回大阪湾生き物一斉調査を兼ねての観察会でしたので、一斉調査の講師として、海の生きものに詳しい有山啓之さん、松井彰子さんにもお越し頂きました。

今回、スタッフ達は参加者から一目でスタッフとわかるようにと導入したお揃いの紺の自然遊学館ポロシャツに初めて袖を通し、観察会に臨みました。

前半は近木川河口で生きもの探しを1時間行いました(図1)。砂泥のたまった場所やマガキがびっしりついた石ころ地帯、突堤に沿ってテトラポッドの並んだところなど、各自、好きなところで生物を採集しました。浅場では全長30cm程のアカエイが、次々に見つかり、触ってはいけない危険な生物として参加者への注意喚起がされました。

採集した生きものは一堂に集め、分類グループごとに仕分けをし、講師の方々より解説をして頂きました(図2)。採集したミミズハゼ類のなかに、黒っぽい体色をして、尾びれの先端に少し赤みがかかった透明帯のある個体のものがあり、これは松井講師によると、イソミミズハゼ *Luciogobius* sp. 6 になるとのことです(図3)。イソミミズハゼは最近になって和名がつけられた種で、岩礁性海岸や内湾の海岸の転石下、

礫の隙間に生息します。近木川では初記録の魚になりました。



図 1. 近木川河口で生きものの探し



図 2. 採集生物の解説



図 3. イソミズハゼ

ハゼ科ミズハゼ属。形態や色彩の個体差が大きく、本種と同属のミズハゼとは外見上区別がつきにくい
ため、今後、これら2種の分類については研究が必要
です。(文・撮影 松井彰子さん)

表 1. 近木川河口で観察した海岸動物

2014年5月31日

グループ		和 名
刺胞動物門	花虫綱 イソギンチャク目	タデジマイソギンチャク
		ベリルイソギンチャク
扁形動物門	渦虫綱 多岐腸目	ヒラムシ類
軟体動物門	多板綱 クサズリガイ科	ヒザラガイ
		マツバガイ
		ニシキウスガイ科
		マツバガイ
		イシタミガイ
		アマオブネガイ科
		イシマキガイ
		タマキビガイ科
		タマキビ
		アラレタマキビ
	二枚貝綱	アツキガイ科
		イボニシ
		ムシロガイ科
		アラムシロ
		有肺亜綱
環形動物門	多毛綱	カンザシゴカイ科
		ヤッコカンザシ
		Hydroides属
		ゴカイ科
		カワゴカイ属
	節足動物門	アシナガゴカイ
		顎脚綱
		イワフジツボ科
		イワフジツボ
		フジツボ科
		シロスジフジツボ
		タデジマフジツボ
		アメリカフジツボ
		ミヨウガイ科
		カメノテ
	軟甲綱	ヒゲナガヨコエビ科
		モズミヨコエビ
		ユンボソコエビ科
		ニホンドロソコエビ
		ドロクダムシ科
		トンガリドロクダムシ
		キタヨコエビ科
		ボシエツトゲオヨコエビ
		メリタヨコエビ科
		ヒゲツノメリタヨコエビ
脊索動物門	硬骨魚綱	ナガタメリタヨコエビ
		モクスヨコエビ科
		フサゲモクス
		カマキリヨコエビ科
		カマキリヨコエビ属の一種
		アゴナガヨコエビ科
		アゴナガヨコエビ属の一種
		ワレカラ科
		マルエラワレカラ
		トゲワレカラ
		コツブムシ科
		イソコツブムシ類
		フナムシ科
		フナムシ
		ホンヤドカリ科
		ユビナガホンヤドカリ
		ユビナガスジエビ
		スジエビモドキ
		モクスガニ科
		モクスガニ
		イソガニ
		ケフサイソガニ
		タカノケフサイソガニ
		ヒライソガニ
		アカエイ科
		アカエイ
		ボラ科
		ボラ
		トウゴロウイワシ科
		トウゴロウイワシ
		メバル科
		シロメバル
		タイ科
		クロダイ
		ウミタナゴ科
		ウミタナゴ
		メジナ科
		メジナ
		ベラ科
		キュウセン
		サササカジカ
		アサヒアナハゼ
		アナハゼ
		ニシキギンボ科
		ギンボ
		イソギンボ
		ハゼ科
		ミズハゼ属
		イソミズハゼ
		マハゼ
		ヒメハゼ
		カレイ科
		イシガレイ
		カワハギ科
		アミメハギ
		フグ科
		クサフグ

その後、波打ち際に集まり、地曳網について説明を受けました。参加者のみんなで力を合わせて網を引っ張ること2回、ウミタナゴやトウゴロウイワシなど13種類の魚等が採集されました(図4)。

今回の観察会で見られた動物について、全体の記録を表1に、地曳網だけで採集された記録を表2に記しました。



図4. そーれ、引っ張れ！

表2. 近木川河口地曳網(網入れ2回) 2014年5月31日

グループ	目	科	和名	個体数
魚類	ボラ目	ボラ科	ボラ	8
	トウゴロウイワシ目	トウゴロウイワシ科	トウゴロウイワシ	13
	スズキ目	メバル科	シロメバル	3
		ウミタナゴ科	ウミタナゴ	22
	メジナ科		メジナ	1
	ペラ科		キュウセン	1
	カジカ科	サラサカジカ		2
		アサヒアナハゼ		1
		アナハゼ		11
	ニシギンボ科		ギンボ	1
	イソギンボ科		イソギンボ	1
	ハゼ科		ヒメハゼ	3
	フグ目	カワハギ科	アミメハギ	4
甲殻類	十脚目	テナガエビ科	スジエビモドキ	2
			ユビナガスジエビ	3
		モズガニ科	モズガニ	3

(山田 浩二)

二色の浜稚魚放流

日時 2014年6月8日(土) 14:00~15:00

場所 二色の浜

参加者 80人

協力 大阪府漁業振興基金栽培事業場

大阪府海域美化安全協会

毎年、梅雨時に行うイベントですので、雨に降られることが多いのですが、今回は好天の下、開催されました。今回、放流する幼魚はヒラメで、岬町にある大阪府漁業振興基金栽培事業場で今年2月11日に生まれ育った子たちです。事業場の森場長さん自らがヒラメ1,000尾を運んで来てくださり、放流に先立ち、栽培漁業について解説をして頂きました(図1)。



図1. 栽培漁業について説明

水槽で泳ぐたくさんさんのヒラメの幼魚を各自でバケツに3、4匹すくい入れ(図2)、順次、海の波打ち際まで運びました。そして、「大きく育ってね～」と、声をかけて海へ放流を行いました(図3)。参加者の多くは、この放流作業を2回行ってくれたようでした。



図2. ヒラメの幼魚をすくう



図3. 海へやさしく放流

また、放流と共に、浜に落ちていたゴミも拾い集め、浜辺の清掃に努めました。

(山田 浩二)

親子海釣り体験

日時 2014年6月21日(土) 9:30～12:00

場所 近木川河口左岸導流堤

参加者 26人

後援 フィッシングショップT ポート貝塚店

今回で2回目となりました親子海釣り体

験。雨模様の予報でしたが、幸い雨が降ることはなく絶好の釣り日和となりました。



図1. 二色の浜北端にて準備

まずは二色の浜右岸にて皆さまへのご挨拶、諸注意、釣り方の説明、仕掛けの準備を済ませ釣り場へ向かいます。



図2. 生きた餌に悪戦苦闘

開始直後は餌のイシゴカイや糸の纏れと格闘されている方も居りましたが、30分ほどすると「釣りをしているぞ!」という格好になっていました。すると少しずつですが、「釣れた〜!」「釣れてる〜!」との声を聞くようになりました。

泉州生きもの情報

ジムグリ

2014 年 4 月 19 日、千石荘クリーンボランティアの日でした。花壇の草刈り中に参加者の一人が「赤い、点々のあるヘビがいる」と言い、マムシかもしれないと大勢で恐る恐る残りの草の中を探すと、写真のようなヘビがいました（図 1）。



図 1. ジムグリの幼蛇
(貝塚市千石荘産、全長約 44 cm)

マムシでないことは確かなのですが、「ヤマカガシの幼蛇」と答えたのは間違いでした。申し訳ありませんでした。正解は、ジムグリ *Elaphe conspicillata* の幼蛇でした。地中や石の下に潜ることから、漢字で地潜と書くそうです。毒はありません。

以下の文章は、本誌 46 号に掲載した 2007 年 10 月 14 日の箱谷ハイキングの報告の中の一文です。行事中に幼蛇を採集してきたものの、「ヤマカガシの幼蛇では？」ということになり、咬まれたら大変と大騒ぎしながら撮影し、逃がしてやり

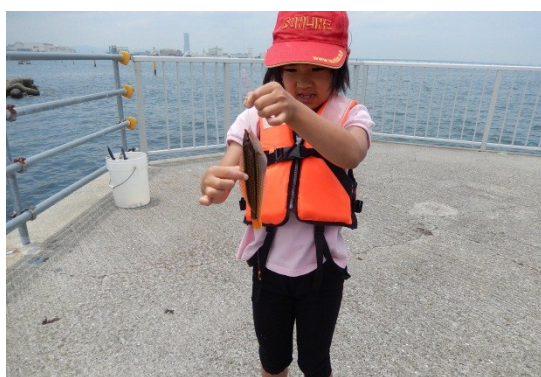


図 3. キュウセンベラ釣れました！

シロギスやキュウセンベラ、クサフグなどの魚が顔を出し始めました。終了間際になり皆さ黙々と竿を降り続けておられます。終了時間となった為、釣り場の清掃の後、再び二色の浜北端へ移動し釣った魚の説明をさせて頂きました。



図 4. 本命のシロギス

今回も参加者の皆さまに怪我もなく無事に遂行できましたことを、御礼申し上げます。ありがとうございました。

釣果： キュウセン 2、シロギス 2、クサフグ 2、
クジメ 1、ハタタテヌメリ 1

(岡田 真太郎)

ましたが、館に帰って調べるとジムグリと分かり、採集すればよかったと悔やむことしきりでした」。

そうなんです。7 年前にも同じ間違いをしていたのです。でも今回は採集して持ち帰り、館内で展示することができました（← 種類を間違えて説明したのに、なんだか偉そうな文章で申し訳ありません）。

ジムグリは腹側の市松模様が特徴的で（図 2）、この模様を見れば、他の種と区別できるそうですが、そう簡単には腹側は見るのが出来ませんね。



図 2. ジムグリの腹側の模様

ジムグリの記録は他のへびに比べて少ない方で、「貝塚の自然－自然遊学館 10 周年記念号」の発行時（2003 年）には記録がありませんでした。その後、今回を含めて、4 個体が確認されています。

2007 年 5 月 28 日

和泉葛城山山頂、西澤真樹子採集

2007 年 10 月 14 日

貝塚市箱谷、山田浩二採集、幼蛇
（本誌 46 号で写真を紹介）

2009 年 5 月 10 日

和泉葛城山山頂、向井康夫採集

2012 年 6 月 14 日

和泉葛城山山頂、岩崎拓撮影
（図 3 参照）

2014 年 4 月 19 日

貝塚市千石荘、クリーンボランティア採集、幼蛇

2012 年に山頂で出会った個体は、龍王神社の石柵にいて中に入って行きました（図 3）。動きはゆっくりで採集しようと思えば出来たのですが、場所が場所だけにバチが当たりそうで、撮影だけに留めました。



図 3. ジムグリの成蛇

（和泉葛城山山頂、2012 年 6 月 14 日採集）

成蛇は落ち着いた色合いなのに幼蛇は派手な赤色というのは、毒蛇であるマムシやヤマカガシでも幼蛇の方が赤い色がきついことと関係があるのだと思います。本当は安全なのに危ないよとウソの情報を出して、それに 2 回とも騙されてしまったわけです。

本誌前々号の 70 号、「千石荘の自然」展の報告で、千石荘では貝塚市で確認さ

れているへび 8 種のうち 3 種（タカチホへび、シマへび、ニホンマムシ）が確認されていると報告しましたが、今回の記録で、4 種に増えました。まだ、もう少し種数は増えそうです。

（岩崎 拓）

イボタガ

5 月 22 日、貝塚市馬場で見慣れないガの幼虫を 1 個体見つけました。何か採集のためらわせる特徴を持っているのでしょうか。採集しなくても種名は分かるかな、と思って撮影だけで済ませました（図 1）。



図 1. イボタガの幼虫
（貝塚市馬場、2014 年 5 月 22 日撮影）

帰宅して調べると、イボタガ *Brahmaea wallichii japonica*（イボタガ科）の幼虫だと判明しました。イボタガは大阪府レッドデータブックで「準絶滅危惧」に指定されています。

自然遊学館には現在、種まで同定できた分で 51 科 859 種の貝塚産ガ類標本があり

ますが、イボタガの標本はありませんでした。それで翌日の 23 日、同じ場所に行き、3 個体採集しました。止まっていた植物はイボタノキ *Ligustrum obtusifolium* でした（図 2）。



図 2. イボタガの幼虫
（貝塚市馬場、2014 年 5 月 23 日採集）

イボタノキは貝塚市内でそれほど多くはありませんが、平野部から和泉葛城山の山麓まで散見されます。イボタガがいたイボタノキは 1 本の低木だけがポツンと生えていました。稲谷に何本かまとまって生えている場所があるので、そこに行きましたが、イボタガの幼虫は見つかりませんでした。

幼虫の特徴は長い捻じれた黒色のひも状のものが 7 本生えていることです。敵をびびらすための装備かもしれません。その日のうちに脱皮したのですが、脱皮殻からもひも状のものがでていて変な形をしていました（図 3）。

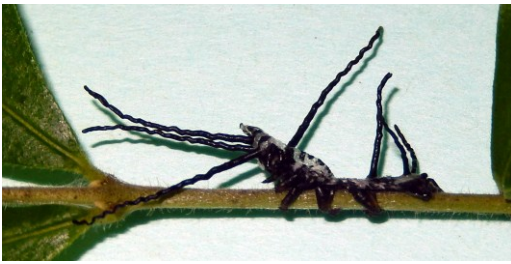


図3. イボタガの脱皮殻
(貝塚市馬場産、2014年5月23日脱皮)

幼虫はイボタノキのほか、同属のネズミモチ *L. japonicum* も食べるそうです。館前に生えている同属のトウネズミモチ *L. lucidum* の葉をやると、バリバリという感じではないですが、何とか食べてくれました。6月9日に蛹化を確認しました(図4)。



図4. イボタガの蛹

白黒印刷では分かりませんが、上が先に蛹になり、下は蛹化したてです。腹部の濃赤色と翅の鮮緑色の対比が何とも言えません。それで、しばらくすると上と同じ赤褐色になってしまいました。

蛹化に成功したのは2個体で、現在、館内で飼育しています。年1化なので、来年の春まで羽化しないようです。

(岩崎 拓)

外来ギンヤンマ

6月16日に海水汲みに行く途中、6月21日の親子つり体験でお世話になるフィッシングショップ T ポート貝塚店さんに依頼書を届けに行きました。その帰りに店長さんが「生きエビの中にヤゴが混じっていたから、ヤゴ持っかえるか？」と言われて、出してもらったヤゴはヤンマ類だとわかったのですが、どんなトンボになるか知りたくなったので、持って帰ることにしました。(図1)



図1. Tポートさんから頂いたヤンマのヤゴ

今回、頂いたヤンマのヤゴは、中国産か韓国産のどちらかのヤゴということだったので、逃げ出さないように 18cm×18cm の水槽に水を張り、それを 42cm×24.5cm の虫かごの中に入れて、飼育することになりました。エサは、メダカをやっていましたが、1匹も食べないで羽化してしていました。

羽化をするまでにそんなに時間もかからないみたいで、10日間で羽化することができました。姿形は、日本にいるギンヤンマとそっくりで、まさかと思い調べてみる

と日本に生息しているギンヤンマと同じ種だとわかりました（図2）。



図2. ヤゴから羽化したギンヤンマ

生息地が違い、逃がすことができないので、標本として保管することにしました。

（鈴子 勝也）

トゲカイエビ

2014年6月28日、貝塚市脇浜の田んぼで、トゲカイエビ *Leptestheria kawachiensis* (鰓脚綱トゲカイエビ科) が多く生息しているのを確認しました（図1）。田植えの時期にみられるこれらのカイエビ類やカブトエビなどの田んぼのエビについて、これまで貝塚市内では、ほとんど調べてきませんでした。今年はこの時期を逃さず調べようということで、目視で見つけた生物を採集する調査を数日間行いました。6月23日には小学校の協力を得て、「田んぼの生きもの調査」会を行い、大勢の小学生にも参加してもらいました。

トゲカイエビは調査した5つの池（脇浜

1丁目：2、脇浜2丁目：1、加神2丁目：1、新町：1）中、3つの池（脇浜1丁目、脇浜2丁目、加神2丁目）で生息が確認されました。カイエビ類は左右2枚の二枚貝状の甲殻に包まれ、殻は黄褐色をした甲殻類です。二枚の殻の隙間から脚を出して、水中を泳ぎ回ります。採集したトゲカイエビは殻の背縁部が直線的で、殻の長さは8mmに満たないサイズでした。



図1. トゲカイエビ



図2. 甲殻を取り払ったトゲカイエビ

種類を調べるため、解剖して二枚の甲殻を外し、裸の状態にしました（図2）。そして頭部を実体顕微鏡で見ると、吻端にトゲが1本あるのを確認できました（図3）。このトゲが、トゲカイエビという名前の由来

となっています。大和川水系や淀川水系で最近調べられた結果によると、カイエビ類の中でトゲカイエビは最も普通種になっています。



図 3. 頭部の吻端にあるトゲ
(赤丸で囲まれた部分)

参考文献

大阪市立自然史博物館 (2006)「第 35 回特別展 大和川の自然-きたない川?にもこんないるで-」

大阪市立自然史博物館 (2010)「第 41 回特別展解説書 みんなでつくる淀川大図鑑 山と海をつなぐ生物多様性」

(山田 浩二・高橋 寛幸)



館長コーナー

遊学館 20 周年を記念して

『生きものだいすきで 20 年』

—生きものだいすきの歴史が

積み上げたもの (最終回) —

自然遊学館は、貝塚の自然を調査し、豊かな環境を保全していくために、貝塚市二

色町に建てられ、環境教育の拠点となるべく、貝塚市の生きもの調査や植物調査を重ねています。その最終回をお送りします。

遊学館のことをより知っていただけるように、最終回は少し角度を変えて紹介していこうと思います。(自慢げに聞こえる所もあると思いますがご容赦ください)

標本・資料

まず、館内に展示されている生き物の数と種類、これは見学に来られた方のほとんどが驚いています。このことは毎回紹介させていただいていますが、嘘ではありません。20 年間に積み上げられた生きもの記録数はこの規模の博物館では『他に類を見ない』といっても過言ではありません。

私も 2010 年 1 月～2014 年 4 月までに発行された最近五年間の季刊誌『遊学館だより』で、『初』と名のついたもの(初記録・初標本・初お目見え・初めて等)だけを調べてみました。その総数は 116 件となり、「これが 20 年間で『初』を含みすべての生きものとなるとどれだけの量になるのか?」と驚きました。

因みに平成 26 年 7 月 20 日(日)から特別展『貝塚市の生きものたち』と題して展示会をしています。ここでは、初記録された生きもの・珍しい生きもの・絶滅の危機にある生きものの中から特に注目してほしい生きものを写真・標本で紹介しています。



特別展『貝塚市の生きものたち』の様子



遊学館だよりから読み取った記録

展示会場（多目的室）の一角には『遊学館だよりから読み取った貝塚市の初記録、注目種』のコーナーもあります。

来館者のつぶやき

つぶやきというより大きな声の時もありますから感嘆の声という方が当たっているかもしれんません。

その会話の一部をいくつか紹介します。

◇親子連れ

色々水槽などを見ながら

「ここスゴいな。カエルやで！イモリもいるし。ホントいいとこやわー」

◇別の親子連れ

「こんなんホンマに居るん？ここに居るってことはホンマに居るんやなあ。」

◇若い男女カップル

「イヤー！サンショウウオ。コガタブチ
サンショウやって！見た事ないわ。おもしろいな」

◇お母さんたちのグループ

「な、ここ良いやろ。こんなとこ他にないで！」

「ホントここ良いよな。見やすいし。・・・ずっと置いといて欲しいわ。」

◇施設から見学に来たお年寄り

「若い時にはこんなのいっぱい居たよ！懐かしいな！」

◇介護施設から車いすで来館

入口の水槽を見て、

「これ何？大きいなー。亀こんなに大きい？」

水槽を見て

「鯛や！すごいなー」

◇中学生や高校生

数名でふらりと立ち寄り、じっと生きもの水槽を眺め、盛んに会話しながら、生き

ものの名前を確認している中学生や、高校生は後を絶たちません。

地元の小学生

館に数人で走り込んできて、

「ねえこれ何ていいますか？」

「魚を海でとってきたので見てください。」

「何かお手伝いすることありませんか？」

等々目を輝かしてやってきます。



大阪湾生きもの水槽

前回の最後にも書きましたが、遊学館には、親子、幼児連れのお母さん、孫を連れて遊びに来るおじいちゃんやおばあちゃん、何度も訪れる人や初めての人、休憩のために訪れる人など様々な人が来館します。そして、入口の大阪湾水槽の魚を見て盛んに驚きます。



入口で迎えるメジナ

そして、その上のカメの剥製に目をやります。



水槽の上部に並ぶ剥製

その後、中央の展示室に入ります。ここでは、小さな子どもたちは必ずと言っていいほど、大きな声でお母さんや友だちを呼びます。決まっという言葉は

「ねえーねえー！おかあさんきてー！」

「こっちきてよー！」

また、大人同士で訪れた方でも、感嘆の声を掛け合う方も多いです。

「ここ良いねー」

「ここスゴイよ」

「へえー、初めて見たわ！」

更に、前回紹介したように、私たちに

「こんなに身近な生きものがたくさん
いる所は見た事がないです。他にない
ですね？すごいですね。」

「とにかく楽しくて何度も来たくなり
ます。また来ます。」

と励ましの声をかけて下さる方も。

何度も言いますが、遊学館は、訪れた人
たちの心の憩いの場所になっていること
は間違いありません。

人気者亡くなる

昨年の 20 周年記念行事の時に行った『生
きものだいすき総選挙』人気ナンバーワン
のタカクラタツが亡くなりました。



元気だったころのタカクラタツ
2014. 4. 27 撮影

長生きしてくれて、来館者を楽しませて
くれました。いつまでも遊学館の人気者と
して生きていてほしかったのですが残念
です。

第 2 回生きものだいすき総選挙投票と 似顔絵コンテストのお知らせ

昨年、創立 20 周年を記念して行いまし
た『生きものだいすき総選挙投票』や『似
顔絵コンテスト』を今年も夏休みに実施し
ています。前回と同じように投票箱を展示
室中央に設置しています。期間は 7 月 20
日～8 月 31 日です。期間中に来館される皆
様、多数ご参加下さいますようよろしくお
願いします。



第 2 回生きものだいすき総選挙

近木川のもう一つの人気者

秋の遊学館の人気行事として河口の生
きもの調べ、カニ釣りがあります。これは
タコ糸にタクワンを結び付け、カニを釣り
上げる、という単純かつ繊細でカニの気持
ちになり活動するという行事です。創立以
来の人気行事で多い人は 20～30 匹釣り上
げますが、全く釣れない人もいます。



大きさ一番 『ハマガニ』



数の少ない『アカテガニ』



数で一番『クロベンケイガニ』

ハクセンシオマネキ



注目すべき『ハクセンシオマネキ』

釣れるカニのほとんどがこの2種類です。他にも釣れる河口のカニはいますが数匹釣れる程度です。近木川河口の最近の記録ではハマガニとクロベンケイがほとんどを占めています。

『アカテガニ』も数年前まではよく釣れましたが、最近は少なく、上の2種に比べると数は少ないです。

ハクセンシオマネキは近木川河口で注目すべき代表的な生きものです。紙面の都合上多くを紹介できませんが、過去2回、2級河川で水質ワーストワンになった近木川が今では鮎が泳ぐきれいな川へと変身していった先駆けとなる生きものです。

近木川河口模型

遊学館の中央展示ホール、入り口付近には近木川河口を模型にした水槽があります。潮の満ち引きを起こす仕掛けがしてあります。

一定時間で河口部分に海水が徐々に流

入し、満潮になります。さらに、一定時間で海水が無くなっていき、干潮になるというものです。



潮の満ち引きを起こす近木川河口模型

この水槽には、実際に河口に棲んでいるのカニやヤドカリがいます。ここにいるカニやヤドカリは、職員が調査の時に捕獲してきたものや、行事の時に参加された皆さんがつかまえてくれて、「遊学館に置いておいて欲しい」、と言って寄贈してくれたものが居ます。じっと見ていると、カニやヤドカリが確認できます。

長々とお伝えしましたが、遊学館と貝塚の生きものたちのつながりが皆様に少しでも届けば幸いです。今後とも遊学館をよろしく願いいたします。

(高橋 寛幸)

特別展レポート

第9回生きものの切り絵展

期間 2014年4月7日～5月11日

場所 自然遊学館多目的室

目標 生き物を詳しく観察し、それをもとに切り絵で表現する。表現された作品を鑑賞し、市民がより一層生きものの興味・感心を高める。

様子



入口挨拶と参考切り絵



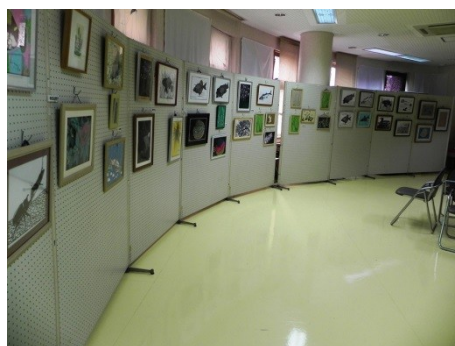
受講生作品



受講生作品



受講生作品



全体のイメージ



受講生作品



受講生作品



受講生作品



第9回切り絵展アンケート

- ・ とてもきれいです。似たものもありましたが、どれもすばしかったです。
→受講者はまだ創作はできません。指導者の作品をコピーして切るので同じ作品となるのです。
- ・ 色とりどりの花や魚がいて細かい作業は私には無理だと思いました。
→見て頂きありがとうございます。あなたはきっとできますよ。
- ・こんなに細かくできてすごいな—と思いました。自然や生きものが色もきれいでぼくもやってみたくと思いました。
→ありがとうございます。ぜひ体験してみてください。
- ・ 素敵な作品に癒されました。切り絵やってみたくと思いました。大人やこども、体験教室などを開いてほしいです。ありがとうございました。
→こちらこそありがとうございました。切り絵製作会は年2回実施しています。次回に申し込んでください。なお、臨時的に体験したいときは日曜日 9:00~17:00、水曜日 17:00~21:00 なら可能です。

- ・ 生きものたちが生き生きとしていて動きだしそうです。色遣いも素敵です。田中繁樹さんのカモは楽しいです。
→本人に伝えておきます。
- ・ 本物みたいだなと思いました。川村甚吉さんの作品を見てザリガニの迫力とてもすごいです。紙だけから生まれる作品とは思えません。
→ありがとうございます。バランスのとれたザリガニ水槽に巨大ザリガニを入れた時、一番弱い立場のザリガニから見た図構成です。
- ・ どの作品も色遣いがきれいだと思いました。
→ありがとうございます。
- ・ みんな上手にできています。そのまま続けてください。それでますますきれいになってきます。それから本物みたいになってきます。
→みていただきありがとうございます。
- ・ 新谷高子さんのカワハギの絵がすごかったです。魚の好きな子どもが一番よく見ていました。魚の絵の教室があったらいいですね。
→本人に伝えておきます。この魚がモンガラカワハギとわかるのはすごいですね。
- ・ 小学生以来 20 年ぶりに息子と来ました。切り絵はすごく細かく綺麗だと思いました。楽しかったです。(高石市民さん)
→20 年ぶりとはすごいです。遊学館のできた年です。
- ・ みんなとても上手で本格的でマジで天才だと思いました。中には小学生もいると思うのですが、全部細かくて小学生がやったとは思えません。(みゆうさん)
→ほめて頂きありがとうございます。今回の作品は大人ばかりですが、小学生の作品も同じようにできます。
- ・ たった一色を使って魚を表現するってとてもすごいことです。一番、新谷さんの作品がすごいです。新谷さんのいろんな色の魚がきれいで周りもカラフルな線が入っていてすごいと思いました。(蔭山美優さん)
→新谷さんに伝えておきます。いい感想をありがとうございました。
- ・ 切り絵はどれもすごく細かくて上手でした。前に一度学校で習ったことがあるけれど、とても難しかったので、この作品はすごいなと思いました。(中学 1 年)
→ありがとうございます。少し練習すれば(まあまあ)できるようになります。
- ・ 全部の切り絵がとても上手でした。特に魚の切り絵が上手でした。色の使い方も上手でした。(KN さん)
→ありがとうございます。切り絵はできるだけ色を少なく表現できるよう工夫しています。
- ・ どちらも細かくてその風景や様子が分かります。
→ありがとうございます。機会があれば挑戦して下さい。
- ・ とてもすてきな絵でした。こんな素晴らしい絵を毎日見ることが出来たら幸せでたまりません。これからも見に行くので新しい絵を待っています。
→見てくださりありがとうございます。年 2 回講座をしていますので是非チャレンジしてください。
- ・ いろんな色があり、まるで自分が描いたみたいです。(紙野さん)
→紙野さんも挑戦してみてください。
- ・ 色とりどりの花や魚がいてこの細かな作業は私には無理だと思いました。また来たいです。(岸本竜さん)
→ありがとうございます。きちんとアンケートして下さった岸本さんなら少し頑張れば立

派な作品が出来るでしょう。

- ・生きものの特徴や影や色などが濃く出ていてとても印象に残りました。
→ありがとうございました。
- ・鳥や魚や昆虫の切り絵がうまかったです。
→遊学館では生きものに焦点を当てて切り絵にしています。
- ・とてもきれいです。すばらしかったです。本物みたいと思いました。また、見に来たいです。ありがとうございました。(萬暁人さん)
→こちらこそありがとうございました。ぜひまた見に来て下さい。
- ・ツクシがとてもかわいかったです。そうぞうしたよりすてきなきりえをありがとうございました。(よねだひなこさん)
→1ねんせいなのによくみてくれました。つくしもうまくかけていました。
- ・バラのえがきれいでした。また、えをかいってください。(りんさん)
→りんさんはえがすきですね。
- ・作品を作った人の想像力がすごいと思いました。わたしもやってみたいです。
→切りながら考え、次へと生かしていきます。ぜひ、年2回の製作会に申し込んでください。
- ・どれも配色が美しくカットも美しいです。
→生きものを詳しく見ると美しい作品になります。

(川村 甚吉)



寄贈標本

<菌類>

- ◆橋本和樹さんより
ハタケコガサタケ 5点

貝塚市澤 2014年6月29日採集

<爬虫類>

- ◆荒木陽介・堀圭吾・南野優輝さんより
ミシシippアカミミガメ 死体1点
近木川河口 2014年4月12日採集
- ◆田中博さんより
アオダイショウ 死体1点
貝塚市脇浜 2014年6月29日採集

<両生類>

- ◆薮下哲也さんより
ヤマアカガエル 生体1点
京都府 2014年4月2日採集
- ◆高山みおさんより
ミツユビアンフューマ 生体1点
ペットショップで購入し、自宅で3年程飼育

<魚類>

- ◆覚野信行さんより
ダイナンギンポ 生体1点
岬町長崎海岸 2014年4月3日採集
- ◆浅香昇大・浅香昇平・矢吹はやと・三野裕空さんより
クサフグ 死体1点
貝塚市二色運河 2014年4月28日採集
- ◆匿名さんより
ハリヨ 幼魚20点
岸和田市津田川上流域 2014年5月3日採集

<軟体動物>

- ◆覚野信行さんより
ヤマトウミウシ 1点
貝塚市二色海浜緑地

2014年5月1日採集

<棘皮動物>

- ◆三野裕空・福富勇樹・野口昂佑・
三野こうだいさんより
イトマキヒトデ 生体2点
貝塚市二色運河 2014年4月29日採集
- ◆覚野信行さんより
マナマコ 生体1点
貝塚市二色海浜緑地公園
2014年5月18日採集

<刺胞動物>

- ◆三野裕空・福富勇樹さんより
アカクラゲ 生体1点
貝塚市二色運河 2014年6月7日採集

<節足動物>

- ◆田中博・橋本和樹さんより
アジアカブトエビ 生体30点
貝塚市 2014年6月29日採集

<昆虫>

- ◆佐々木龍さんより
イチモンジカメノコハムシ 成虫1点
ヒメキバネサルハムシ 成虫1点
カシルリオトシブミ 成虫1点
リングコフキゾウムシ 成虫2点
コフキゾウムシ属 成虫2点
貝塚市馬場 2014年5月6日採集
- ◆河添純子さんより
コシボソヤンマ 幼虫1点
ハグロトンボ 幼虫1点
阪南市和泉鳥取 2014年5月7日採集
- ◆北田誠さんより

フタスジサナエ 成虫1点

貝塚市馬場 2014年5月17日採集

- ◆石野雄大・渡邊悠斗さんより
アカネ属 羽化殻1点
カマキリ科 羽化殻1点
ハラビロカマキリ 古い卵囊1点
貝塚市二色 2014年6月29日採集
- ◆川口博さんより
タマムシ 成虫1点
和歌山県有田市 2014年6月29日採集



スタッフ日誌

4月11日、シロシュモクザメの剥製が届けられ、さっそく展示しました。この個体は今年1月に近木川河口で死体漂着していたものです。来館者の方たちからは、「こんな魚が近くにいるのか!」と驚きの声がかかる展示物の一つとなりました。(浩)

5月28日、市立第5プールにおいて、ヤゴ調べを第5中学校、二色小学校の児童と一緒に行いました。5月は同様に第2、第4プールでも北小学校、南幼稚園の児童と一緒にヤゴ採集を行いました。各小学校、園からは、持ち帰ったヤゴがトンボになったとの吉報が次々に寄せられました。(一同)

6月2日、児嶋格先生から「粉河街道沿いでチョウが群れて飛んでいる」という情報をいただき、現場に向かう途中、馬場、柵谷から永楽ダムに抜けるコースを選択しました。馬場あたりからチラホラ見かけ、熊取町との境では渦を巻いて群飛していた

る状態になりました。テングチョウでした。貝塚市を抜けるまでに500匹以上を数えました。永楽ダムの周囲でもかなり見かけました。翌日、市町境でどうなっているのかを見に行くと、ほとんど飛んでいませんでした。その後、6月10日に和泉葛城山の山頂で群飛を見ました。今年は府内に限らず、いろいろな場所でテングチョウの大発生が見られたようです。(岩)



お知らせ

夏休み自由研究相談

期間：2014年7月23日(水)

～8月29日(金)

場所：自然遊学館

生きものの名前調べや、自由研究に関する質問のご相談を受け付けています。日程調整のため、あらかじめ電話でテーマをお伝えの上、お申込みください。

夏期特別展

「貝塚市の生きものたち」

期間：2014年7月20日(日)

～8月31日(日)

場所：自然遊学館多目的室

これまでに自然遊学館が貝塚市の自然に関して記録してきたデータ・標本・写真の中から、大阪府初記録種、貝塚市初記録種、希少種、注目種等を紹介します。

2014年夏期特別展「貝塚市の生きものたち」

～ 自然遊学館の生きものデータから初記録種や注目種を紹介します ～



場所：貝塚市立自然遊学館多目的室

期間：2014年7月20日(日)～8月31日(日)

貝塚市二色3丁目26-1 水鉄バス「市民の森」バス停下車徒歩1分

Tel. 072-431-8457 火曜日は休館日です。ご注意ください。

* 自然遊学館だよりのバックナンバーは、下記のホームページよりご覧いただけます。

自然遊学館だより 2014 夏号 (No. 72)

貝塚市立自然遊学館

〒597-0091

大阪府貝塚市二色3丁目26-1

Tel. 072 (431) 8457

Fax. 072 (431) 8458

E-mail: shizen@city.kaizuka.lg.jp

<http://www.city.kaizuka.lg.jp/shizen/>

発行日 2014. 8. 25

この小冊子は市内印刷で作成しています。